

5 日目の午後に遅延して発育した胚盤胞は 6 日目胚盤胞を上回るか？

和泉 広樹¹、佐藤 学¹、中岡 義晴¹、森本 義晴²

1) 医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

2) 医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【背景・目的】

胚盤胞凍結の多くは受精 5 日目 (Day5)、6 日目 (Day6) に行われる。その凍結時間帯は施設の業務スケジュールによって様々である。当院では午前中 (9:00-10:00) に観察、凍結を実施し、移植成績は早期に発生した胚盤胞が良好であるデータを得ている。今までは Day5 に凍結できないと判断した胚盤胞は Day6 まで培養していたが、タイムラプス観察により Day5 の午後には発育遅延した胚の中に良好胚盤胞も見られる経験が増えたため、極力 Day5 に凍結したほうが Day 6 に比べ臨床成績は上がるのではないかと考えた。そこで当院では、胚盤胞の早期凍結を目的に 2016 年 6 月より Day5.5 と称して 5 日目の午後 (15:00) の観察と凍結を開始した。この Day5.5 胚盤胞の有用性を調べるため Day5、Day5.5、Day6 間で検討を行った。

【方法】

2016 年 6 月 24 日から 2021 年 1 月 31 日の間に同意を得て胚盤胞凍結、その後単一胚盤胞移植を実施した 2931 周期を対象とした。検討①: Day5.5 を含めた Day5 (2586 個) と Day6 (345 個) で臨床的妊娠率、流産率を比較した。検討②: Day5 凍結群 (2290 個)、Day5.5 凍結群 (296 個)、Day6 凍結群 (345 個) の 3 群で妊娠率、流産率を比較した。

【結果】

検討①: Day5 (Day5.5 を含めた) の妊娠率は Day6 に比べ上がり (51.9% vs. 30.7%)、流産率は下がった (21.7% vs. 34.9%)。

検討②: 各群の妊娠率は 53.2% (Day5)、41.6% (Day5.5)、30.7% (Day6) となり、Day5 と比べ Day5.5 と Day6 で下がった。流産率は 21.2% (Day5)、26.8% (Day5.5)、34.9% (Day6) で Day5 と比較して Day5.5 と Day6 で上がった。Day5.5 と Day6 間で妊娠率、流産率に差はみられなかった。

【考察】

Day5 胚盤胞の移植成績が良好であることが確認できた。一方で Day5.5 と Day6 の臨床成績に差は無く、むしろ Day5 胚との差が生じていた。これは同じ Day5 でもより早くに発育している胚を優先移植する重要性が考えられる。